

ありがとうの手がみ

みほの学校では、七月になるとみんな
でうれしいしゃのしせつにいつていま
す。そして、コマやおりがみであそんだ
り、手じなをしたりします。なぞなぞ、
クイズなど、グループごとにじゅんびを
していき、うれしいしゃとこうりゆうし
ます。

みほは、そのはなしを先
生からきいて、ちよつとし
んぱいになりました。

(はじめてあう人になん
てはなしかければいいの
かなあ。)



みほたちのグループは、かみしばいを
よむことにしました。

いよいよ、うれしいしゃのしせつにい
く日です。みほは、あさから、むねがド
キドキしていました。そこには、車いす
にのったかたやベッドでねているかた、
耳がふじゆうなかたなど、いろいろなか
たがいました。

グループにわかれて、かみしばいをよむ
じかんがきました。みほは、ふあんでこえ
が小さくなつてしまいました。だから、お
じいさんやおばあさんのかおを見ることも
できませんでした。すると、けんたがみほ
の耳もとでささやきました。

「大きなこえでゆつくりとよんだほうが
いいよ。」

みほは、けんたがいつてくれたとお
り、かみしばいをゆつくりと大きなこえ
でよんでみました。おじいさんやおばあ
さんのほうをそつと見たら、にこにこう
なずいてきいてるのが見えました。

おわりのじかんがきま
した。さよならのあいさ
つをしたら、一人のおば
あさんがちかくによつて
きました。



そのおばあさんは、あ
く手をしようともほに手を出してきまし
た。みほもにこにこしながら、手を出し
ました。おばあさんは、あたたかい手で
ギョツとにぎってくれました。みほは、
こころの中まであたたかくなりました。

しばらくして、学校にあく手をしたお
ばあさんから手がみがとどきました。

先日、わたしたちのところに来て
くださり、ありがとうございました。
みなさんといっしょにあそべて、
とてもたのしいひとときを
すごせました。
なみだが出るほどうれしかったです。

その手がみは、一文字一文字ふるえた字
でていねいに大きくかいてありました。

みほは、あのときのあたたかいあく手
をおもい出しました。こんどあいにく
ときには、なにをしようかとかんがえは
じめました。